

平成 28 年度共同化科目担当者会議と 教員アンケートの概要

1. 共同化科目担当者会議について

10月31日(月)18:00~20:35に教養教育共同化施設「稲盛記念会館」106講義室で開催した。昨年度に引き続きリベラルアーツセンターと共催の形で開催した。後期授業期間中の夕刻であるにもかかわらず22名の教職員が参加した。

まず、運営委員長の開会挨拶があり、その後

1. 「各種アンケートの結果について」
2. 「宿泊研修の報告と文系学生向けの理系科目の構築について」
3. 「『経済＝人間の生活の営み』から始まるもう一つの経済学の試み」
4. 「三大学教養教育共同化科目リベラルアーツ・ゼミナールⅠ(感覚で探る問題解決の方法)実践報告」

の4つの報告があった。

報告1は、前学期の授業アンケートの全体集計結果、前年度の1年次生アンケートのまとめ、前年度の教員アンケートのまとめについて、それぞれ配布資料に基づいて概要の報告であった。特に、1年次生アンケートについては、2年間の集計結果の比較データが示されて、履修登録方法の改善を図った2年目では、抽選に対する容認度の向上等が確認できた。報告2は、9月に実施されたばかりの学生の自主的な活動としての宿泊型研修の実施報告であった。報告3と報告4は、それぞれ共同化科目担当者からの授業実践報告であり、具体的な授業の中での工夫や学生の反応などの紹介

があり、貴重な情報共有の場となった。

質疑応答では、授業アンケートの全ての項目を意識した授業展開が必要かという問いに対して、科目により力点の置き方が異なって良いという見解が教育IRセンターから出された他、大人数の教室での「アクティブ・ラーニング」の可能性について、教壇から多くの質問を投げかけることにより議論につなげることができるという経験が披露されたり、学生交流の方法や、「履修態度の悪い学生」への対応、文系の学生が理系の科目を取ることの重要性など多岐にわたるテーマで意見交換が行われた。報告のあった科目だけでなく、出席者自身の担当科目について「学生を眠らせずに授業を行うには？」というような疑問や悩みなどを、担当者間で共に考える空間となった。

2. 教員アンケートについて

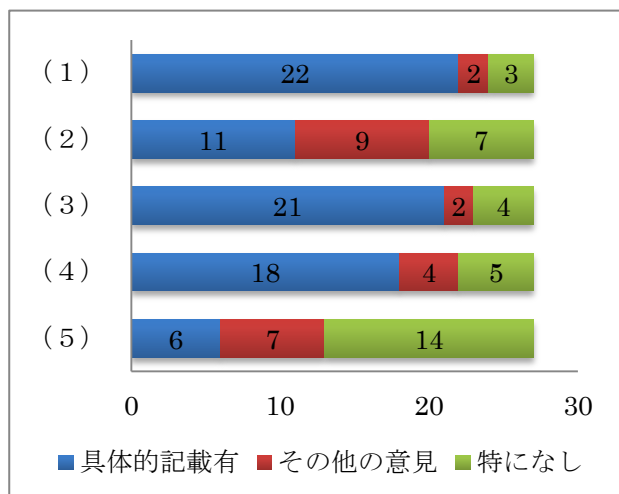
年度末には、共同化科目担当者を対象に教員アンケートを実施して、担当者会議に出席できなかった方々を含めて意見を聴取した。昨年度の全共同化科目74科目を担当する62名(複数教員担当科目では代表者)に対して27名(43.5%)の回答が得られた。意見を求めた項目は以下の通りである。

- (1) 共同化科目の成績評価について
- (2) 三大学の学生交流について
- (3) 学生へのフィードバックについて
- (4) 教養教育共同化施設について
- (5) 共同化科目の取組全般について

特に、(1)~(3)については、各担当者が行っている配慮や工夫についての具体的記載を求めた。

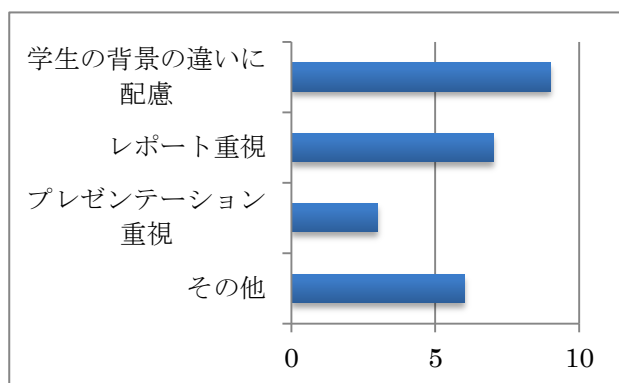
以下は、集計結果の概要である。

まず、回答状況の概要を図示する。

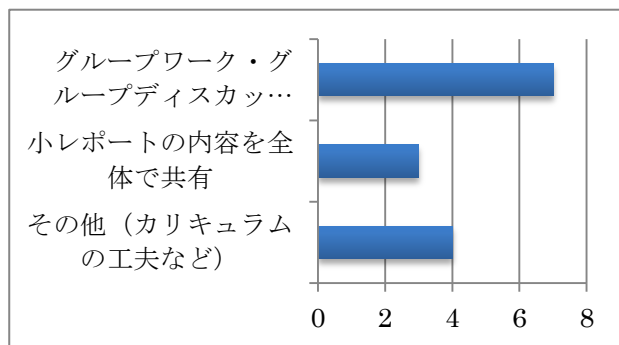


以下は、各設問に対する具体的な回答を IR センターで幾つかの 카테고リーに分類し集計したものである。

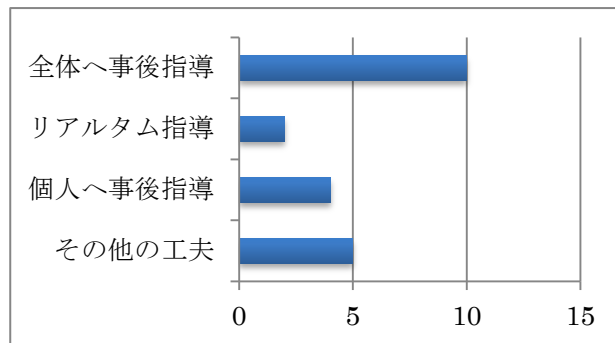
(1)成績評価



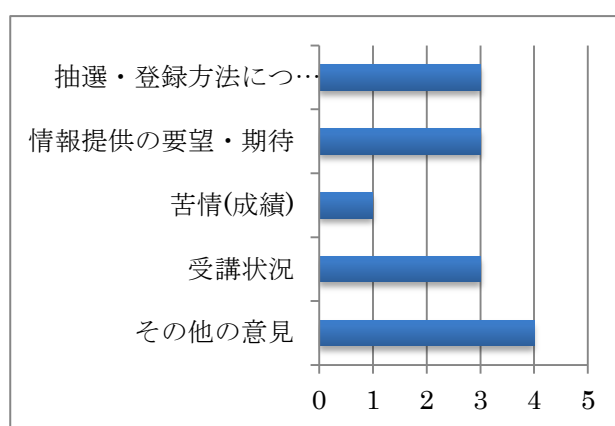
(2)学生交流



(3)フィードバック



(5)取り組み全般に対する意見



また、施設・設備に関する設問(4)に対しては、アンケート回収後直ちに、比較的対処しやすいと思われる苦情や要望等を抽出して、機構と各大学の事務方での対処を求めてきた。

なお、各担当者に対しては、これらの項目に対する回答の具体的な記載内容を、上記のようなカテゴリーに分けて一覧できるようにした「まとめ」を教育 IR センターで作成し、実施年度の担当者だけでなく、新年度の共同化科目担当者にも配布した。このようにして、各教員の取り組み上の工夫や意見を担当者間で互いに共有できるようにしている。